

## 千葉学園高等学校

住所 八戸市類家二丁目一の十一

生徒数 一一五〇名

部員数 二三名

顧問 寺嶋 正春

### 一、本学園について

本学園は、明治四十三年（一九一〇年）に創立され、爾來八十二年の歴史をもつ実業高校である。創立者千葉クラ先生によって開学した八戸女塾にその源を発し、五度校名を改めて現在に至る。その間二代目校長千葉富江先生を経て現校長は千葉満先生である（第三代目）。

校訓「信愛」を基に「くらしに生きる教育」「心豊かな人間を育てる」ことを教育目標にかかげ「生活文化科・調理科・商業科・衛生看護科」の四科を設置している。いずれの科も女子の特性を生かして、社会生活や家庭生活に役立つ技能と資格の修得を大きな目標としている。

### 二、空手道部の発足について

私が本学園に赴任したのは、昭和四十八年四月、商業科の教諭としてである。部活動の顧問は、応援団、水泳部、スケート部等を延べ五年経験する。その後、昭和五十三年に空手道愛好会を結成。愛好会は翌五十四年に空手道部に昇格する。

青森県高体連に空手道専門部が加盟し活動していたことは赴任した頃から知っていた。埒外ではあったが、その活動には興味津

津たるものがあつた。また、当時は、カンフー映画の全盛期でありブルース・リー主演の「燃えよドラゴン」は特に人気があつた。生徒の中に、それに感化され、是非空手を経験してみたいという者が何名かあり声を掛けたところ十名集まつた。どちらかと言えばあまり品の良い連中ではなかつた。早速校長に愛好会結成を申し入れたところ、抵抗なく承諾を得ることが出来た。

愛好会当時は試合に参加しなかつた。しかし、競技役員（審判員）として大会に臨んだ。当時の審判ルールは六人制であつた。最初に与えられた役割は、形競技の点数読み上げであつた。力一杯大きな声で読み上げた記憶がある。今思えば懐かしくも滑稽に思える。副審・主審につけるまでには時間がかかつた。愛好会から部に昇格するためには、大会役員として試合に参加し、校内外ともに自分の存在価値を認めてもらうことから始めなければならなかつた。幸いに、一年後に部として活動できたことは、このことが大きな要因であつた。

### 三、空手道部の活動について

十四年間、女子部を総めていく上では、色々なことがあつた。断片的ではあるが次にそのいくつかを記してみたいと思う。

#### (一)部員勧誘

現部員数は、二十三名。（一年八名、二年八名、三年七名）部にとって部員確保は、まさに死活問題である。その策を紹介する。第一の策。入学式後、生徒会主催による部活動紹介がある。各部五分制限で行なう。空手道部は、特別に三分延長してもらい八分で実施する。基本移動そして形の披露である。組手は危険という

イメージを与えるので差し控えている。物めずらしく見物するがほとんど効果なしである。第二の策。新入生全ての調査書に目を通し、運動能力が優れている者をリストアップする。残念ながら空手経験者は皆無である。部員にリストアップした名簿を渡し個別にアタックさせる。少しでも手答えのある者には、即「月刊空手道」を手渡す。しかし、回答は人は集まらず本が戻ってくるだけである。第三の策。他の部を退部した者を拾い集める。時期は



五月の連休明け、そして夏休み明けがチャンスである。それ以降は無理である。幸い今年には八名確保できた。色々策を尽すが部員確保には難儀する。

#### (二) 稽古

「練習」と称せず「稽古」と言わせている。理不尽ではあるが、「稽古」の響きが単に好きだからである。稽古日は月曜と土曜。日曜日は原則として休むことにしている。時間は、四時～六時半の二時間半である。休憩は深呼吸三回のみである。学生時代先輩から「休憩」とはこうあるべきであると教えられた経験からこだわり続けている。基本を主に、対面、フリー(自由組手)

のワンパターンの稽古である。しかし、最近では試合に勝つための稽古も取り入れている。

#### (三) 戦歴

本学園の歴史について前述したが、創立八十周年の年に県大会で初優勝、そして宮城インターハイでベスト8の初陣を飾ることができた。三年前からこの八十周年に華を添えたいと部員一丸となって頑張った成果であった。学校内部においても誰一人この結果を予期した者はいなかった。しかし、秘かに狙っていたのである。まさに、感動の一言であった。

#### 四、結び

本部会の創立二十周年を機に本学園空手道部の歩みについて振り返ることができた。正直なところ記録、整理の不備として顧問としての采配の杜撰さにほとほと呆れ果てた。しかし、この記念誌に記されている通り、本部会の二十年間の歴史が簡潔に示されていることに救われた。往時と比較して、現在の専門部は、組織、大会規模そして選手達の挙動は数段洗練され、隔世の感がある。しかしながら、そうだからと言って、本部会が何の憂いもなく邁進していけるわけではない。これからこそ、就学人口の大幅な減少、空手道経験者の若手顧問の確保等大きな問題が待ち受けているのである。今すぐ解決策を見出すことはできないが、空手道に対する真摯な取り組み、そして前向きな姿勢を持ち続ける限り凌駕して行けるものと信ずる。

今後とも関係各位のご指導ご鞭撻を請う。